

## プロローグ 南河内地域の地形

南河内と呼ばれる地域について、その範囲は明確ではありません。

大まかに、河内国の南部をさすと考えられますが、今回は、当館の所在する南河内郡と富田林市の石川流域をおもに取り上げました。

この地域の地形的な特徴は、金剛山地および石川とその支流によって形成されたと考えられます。

金剛山地は、大阪府と奈良県の境に南北に延びる山地で、北から南へと標高が増し、南端は和泉山脈につながります。

金剛山地は、東の奈良盆地側が急斜面となり、西の大阪平野側は傾斜がゆるく、多くの丘陵地が発達しています。

また、竹内峠と水越峠を境にして、北部は二上山地、中央部は葛城山地、南部は狭義の金剛山地と、地形上三つの地域に分けることもあります。

石川は、和泉山脈から大和川との合流点まで、約三十四キロメートルの河川です。

南河内地域の主要河川で、本流の石川とその支流が形成した低地や段丘に、現在の町の中心部があります。

地域内には、最古の官道とされる竹内街道が通る、竹内峠に代表されるような峠がいくつかあり、古来より大和へ至る陸上交通の要衝と考えられます。

また、石川を利用した河川交通も考えられ、河内と大和をつなぐ交通の結節点として、南河内が果たした役割は大きいでしょう。